

授業科目 老年健康評価特論	科目概要・形式 2単位 30時間 (15コマ) 講義科目	配当年次 博士前期1年次 後期開講	オンライン参加 可
科目責任者	出貝 裕子		
科目担当者	出貝 裕子, 長内 志津子, 千葉 武揚, 花田 麻由美, 佐々木 多恵子 (非常勤), 丹藤 淳 (非常勤), 阿部 久美 (非常勤)		
<p>1. 科目のねらい・目標</p> <p>老化と疾病を基盤に発症しやすい高齢者の複雑で多様な健康障害やそれに伴う生活機能の障害を包括的にアセスメントする能力を養う。さらに、健康障害・生活機能障害を持ちながら入院・療養生活している高齢者の具体的な事例に関する包括的アセスメントを他者との議論を通じて深められる能力を養う。</p> <p>到達目標</p> <p>[1] 高齢者の包括的なアセスメント方法について説明できる。</p> <p>[2] 高齢者の複雑で多様な健康障害やそれに伴う生活機能障害について説明できる。</p> <p>[3] 複雑で多様な健康障害やそれに伴う生活機能障害をもつ高齢者の事例をアセスメントし、それに応じた高度で専門的、かつ効果的な看護方法について検討できる。</p>			
2. 授業計画・内容			
回	授業内容	担当者	
1	高齢者の包括的な健康生活評価の枠組み (CGA、ICF)	出貝	
2	加齢に伴う生活機能変化の看護アセスメント方法 (身体運動・感覚・認知機能, 精神機能, ADL, IADL, セルフケア能力などの評価)	長内	
3	加齢に伴う心理・社会的状態の変化の看護アセスメント方法 (発達の評価, 主観的幸福観, 生活満足度)	出貝	
4	加齢に伴う心理・社会的状態の変化の看護アセスメント方法 (気分, 情動, 意欲)	出貝	
5	加齢に伴う心理・社会的状態の変化の看護アセスメント方法 (ソーシャルネットワーク, 孤立, 家族関係, 介護負担)	出貝	
6	高齢者によくみられる病態・疾患における身体的評価と生活機能アセスメント (慢性心不全, 腎機能低下)	千葉	
7	高齢者によくみられる病態・疾患における身体的評価と生活機能アセスメント (脳血管疾患)	千葉	
8	救急場面における高齢者の身体的評価および高齢者・家族の心理的側面の評価	千葉	
9	高齢者に特有な症状の評価方法と事例検討 (活動性の低下や生活リズム障害, フレイル, サルコペニア)	長内・花田	
10	高齢者に特有な症状の評価方法と事例検討 (尿失禁, 排便障害, 皮膚障害)	佐々木	
11	高齢者に特有な症状の評価方法と事例検討 (栄養評価, 低栄養, 摂食嚥下障害)	丹藤	
12	高齢者に特有な症状の評価方法と事例検討 (せん妄)	阿部	
13	複合的な健康障害・生活障害を抱える高齢者の実践事例における包括的アセスメント (模擬事例による演習)	出貝・花田	
14	複合的な健康障害・生活障害を抱える高齢者の実践事例における包括的アセスメント (実践事例のアセスメントのまとめ)	出貝・花田	
15	実践事例についての発表と討論	出貝・花田	

<p>3. 教科書・参考書 (参考書) 小木曾加奈子: 高齢者ケアの質を高める ICF を活かしたケアプロセス, 学文社, 2024. 上田敏: ICF の理解と活用 : 人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか入門編, きょうされん, 2021. 日本老年医学会: 高齢者総合機能評価 (CGA) に基づく診療・ケアガイドライン 2024, 南山堂 T, A. Touhy 他: Gerontological Nursing & Healthy Aging(6 edition), ELSEVIER, 2021 浅野嘉延・吉山直樹編: 看護のための臨床病態学 改定 5 版, 2023, 南山堂 井村裕夫編集: わかりやすい内科学 第 5 版, 2023, 文光堂</p>
<p>4. 成績評価方法 プレゼンテーション及び討議への参加状況 (40%), 課題レポート (60%) で総合的に評価する.</p>
<p>5. 受講要件 なし</p>
<p>6. 社会人学生に対する配慮 必要に応じて夜間・土曜日開講, オンライン参加(ライブ)可能</p>
<p>7. その他</p>